

(様式1)

令和3年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「発見・挑戦・創造」のもと、一人一人の生徒が自分に対する理解を深め、将来の社会的な自己実現に向かって意欲的な学校生活を営むことができるような援助・指導を行う。

[発見：新たな自分の発見、挑戦：新たな自分への挑戦、創造：新たな自分の創造]

2 学校の特徴

本校は、普通科Ⅰ部・Ⅱ部、総合福祉科Ⅰ部からなる昼間の定時制単位制高校である。前期・後期の2期制で、進路や興味・関心に合わせて多数の科目群から授業を選択でき、他部での履修や通信制科目の受講も可能である。ボランティア活動や就業体験、通級講座、高卒程度認定試験なども弾力的に単位認定し、多様な学びをサポートしている。

少人数クラスにより、一人一人の個性や能力に応じたきめ細かな指導を展開しており、支援の必要な生徒に対しては、SCやSSW、通級指導教員をはじめ外部機関とも連携し、学校全体で情報共有しながら支援を行っている。

令和2年度にグランドデザインを策定し、「目指す生徒像」と「目指す学校像」をすべての教職員が意識・共有することで、教育活動の改善・充実が図られている。

また、高校生と社会人が一緒に学ぶ異世代交流型の共学講座では様々な相乗効果があり、地域における生涯学習の拠点となっている。

3 学校の現状と課題

本校の生徒は、概して素直であるが、様々な理由による不登校経験者や特別な支援を要する生徒、家庭に諸事情を抱える生徒などが混在している。そのため学力や学習意欲、進路意識、価値観、生活習慣、コミュニケーション能力等において、その実態は多様である。

すべての生徒に、将来たくましく未来を拓き、社会で輝く人材となるための力として、「自ら学び考える力・自律し自立する力・他者と共生する力・健やかな心身」の育成を図っていきたい。そのために、全職員が連携・協力した実態の的確な把握と共有、それを踏まえた適切な個別支援や指導法の充実・改善、教育環境の在り方を継続的に工夫する必要がある。学校全体のユニバーサルデザイン化や新学習指導要領の実施に向けたカリキュラム編成、タブレットの効果的な活用等によるICT教育の充実と授業改善も必要であり、さらに組織力を高めることが求められる。

さらに、本校の特色化・魅力化を図るため、本校に期待される社会的役割の再定義および入学者選抜時から卒業時までの一貫したスクール・ポリシー（グラデュエーション・カリキュラム・アドミッションの3つのポリシー）を策定し、公表したい。

また、生涯学習校として社会人と共に学ぶ活動や、地域における諸活動による教育効果を十分生かすよう取り組みの検証と改善を継続していく必要がある。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方針及び計画	
1	学習活動	目 標	・ 各教科、科目において、生徒一人一人の主体的な学びの姿勢と学習課題の解決に向けた思考力、判断力、表現力を育成し、学習内容の確実な習熟を目指す。
	重点1	計 画	① 学習内容の理解・定着と学習意欲を向上 させるため、ICT機器の活用と互見授業や校内外研修などにより授業研究を進め、生徒主体のわかりやすい授業とユニバーサルデザイン化を推進する。 ② 生徒の多様な学習意欲・習熟度を把握し、学習指導法の改善に活かす。また、各教科間の連携を図りながら、生徒一人一人の能力・適性・進路希望等に応じた学修の機会を提供する。
2	学校生活	目 標	・ 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会的な規範やマナーを遵守する態度を育成し、安全意識の高揚に努める。 ・ 自己の健康状態に関心を持ち、積極的に健康の保持増進に努めようとする能力・態度を育成し、各自の生活リズムについて考えることができるよう支援する。
	重点2 重点2	計 画	① 日常生活における基本的な生活習慣の確立や、社会生活のきまりについて、主体的に考えさせるよう努める。 ② 地域の講師による安全教育や、車体検査・交通安全指導を実施することにより、 安全意識の高揚 を図るとともに、自転車等の乗車マナー向上に努める。 ③ 保健委員会の活動を通して、 基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。 ④ SC、SSW、巡回指導員、通級指導教員との連携を深め、個々の教育相談の充実を図り、職員の情報共有を進め、生徒理解に努める。
3	進路支援	目 標	・ 将来の自己実現に向かって、意欲的に学校生活を送っていかうとする態度を育成し、進路実現に向けてきめ細やかな指導を行う。
	重点3	計 画	① 適切な進路目標を設定し、進路実現に向けて必要な能力の育成 を図るため、進路希望調査による実態把握と進路情報の提供を充実させる。また、「進路ノート」を活用するとともに、面談を通して人間としての在り方・生き方について自己理解を深められるよう、きめ細やかな支援を行う。 ② 職業研究、インターンシップ、進路特別講座等において、関連機関や就職支援教員（JST）との連携により、個々の職業観の育成を図る。

4	特別活動	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を培う。 ・ 読書に親しむ機会を増やし、豊かな人間性と情操を育てる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">重点4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">重点4</div>	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事では、内容や運営方法を常に工夫し、生徒の満足度が十分に上がるよう努める。 ② 学校行事への積極的な参加を促し、生徒が自主的な企画・運営を経験することで、一人一人に満足感と達成感を持たせる。 ③ 部活動では、生徒の積極的な加入と自主的な活動を促し、心身の成長につなげる。 ④ 多様な生徒のニーズに応じた読書活動を支援するため、購入希望図書の把握や図書館ニュースの発行などにより、本校図書館の学習環境や機能を充実させる。 ⑤ 生徒主体の委員会活動や教科・HRとの連携により、読書習慣の定着を図り、図書館の有効な活用を進める。
5	その他 総合福祉 科学習活動 及び 保護者・ 地域との 連携	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合福祉科では、地域で活躍する介護人材の育成に向け、社会福祉に関する基礎的基本的な知識と技術を総合的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させる。 ・ 保護者や地域の施設との連絡を密にししながら、地域との連携や交流を推進する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">重点5</div>	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域との福祉交流活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、専門技術者による講座を通して社会福祉への理解を深めさせる。また、将来の進路目標や自らの在り方生き方について考えさせる。 ② 福祉関連の進路目標を早期に確立させ、専門科目への意欲的な学習へ導き、学習の達成感を持たせつつ介護技術の定着を図る。 ③ P T A、同窓会、地域諸団体等との連携を深めることで、学校行事やボランティア活動へ保護者・生徒が参加できるような環境づくりに努める。 ④ オープンハイスクールの実施や、ホームページ、フライヤー等を活用して、本校の教育活動を広く紹介する。

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和3年度 となみ野高等学校アクションプラン		-1-
重点項目	学習活動	
重点課題	① 学習内容の理解・定着	② 学習意欲の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容について理解・定着の乏しい生徒が見られる。 ・ 学習・授業に対する意欲の乏しい生徒が見られる。 	
達成目標	① 単位修得率 90%以上	② 学習・授業についてのアンケートで「先生の説明はわかりやすい」と回答した生徒の割合 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット等の効果的な活用等、授業改善に取り組み、よりわかる授業を目指す。 ・ 適切な課題を設定し、確実な提出を促すことで学習内容の定着を図る。 ・ 生徒によっては、通信制課程の活用など、多様な学習機会を確保できるようにする。 ・ 学習・授業についてのアンケートを実施し、生徒の実態を把握する。また分析結果を個人面接等で活用し、学習への意欲を喚起する。 ・ 進路指導部と連携し、進路目標を意識して学習に取り組むよう促すことで、授業への意欲にもつながるようにする。 ・ 『履修の手引き』や科目登録ガイダンスを効果的に活用することで、卒業後を見通した主体的な科目履修ができるようにする。 	

令和3年度 となみ野高等学校アクションプラン		-2-
重点項目	学校生活	
重点課題	① 安全意識の高揚	② 基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故が、令和元年度1件、2年度2件発生している。スマホの「ながら運転」など、安全意識に欠ける生徒や事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒が見られる。 ・ 生活リズムの乱れから、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒が見られる。体の不調が心の健康に影響を及ぼすケースもあり、生徒自身が心と体の健康やつながりについて考え、心身の健康保持増進に有効な習慣を身につける必要がある。 	
達成目標	① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数 ゼロ件	② 生徒向け研修会「心と体の健康講座」実施回数 年10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高める。また、定期交通安全指導を実施し、歩行時、自転車運転時におけるマナー遵守意識を向上させることで事故防止を図る。 ・ 車体検査を学期に1回実施し、十分に整備された自転車の使用を徹底する。 ・ 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう指導する。 ・ 全校集会や年次集会等で、命の大切さを考える機会を持ち、自他の命を尊重する意識・態度を醸成する。 	

令和3年度 となみ野高等学校アクションプラン		－3－
重点項目	進路支援	
重点課題	適切な進路目標を設定し、進路実現を目指す。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒が見られる。 ・ 目標設定に係る情報量の不足が顕著である。 ・ 進路実現に必要な基礎学力や学力向上の取り組みが不足している生徒が見られる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率 100%	② 1月の進路希望調査で、進学・就職を明確に できる生徒の割合 1年次75%以上 2年次90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路特別講座（進路ガイダンス、社会人講話、企業見学会、先輩講話）およびインターンシップを事前・事後指導を併せてきめ細かく行う。また、進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的な進路意識の向上を目指す。 ・ 年次と連携し、生徒に対し速やかな進路情報の提供を行う。さらに、情報誌を取り寄せる等により進路情報の充実を図り、生徒および職員が進路研究しやすい環境を整備する。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けさせるよう指導する。 ・ 基礎学力コンテストやキャリアアッププロジェクトの実施を通じて、進路実現に必要な学力の育成を図る。 	

令和3年度 となみ野高等学校アクションプラン		－4－
重点項目	特別活動	
重点課題	① 学校行事への積極的な参加	② 図書館の有効な活用
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動や学校行事に苦手意識をもち、大勢でのコミュニケーションを必要とする場面になると場になじめない生徒や、参加に消極的な生徒が見られる。 ・ 読書量の多い生徒が増加傾向にある一方で、読書への苦手意識をもつ生徒も見られる。読書や学習の質を向上させるための支援が効果的と考えられる。 	
達成目標	① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、となみキャンパスフェスティバル)充実度 90%以上	② 図書館の活用率向上 75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校訓「発見、挑戦、創造」に基づき、学校行事へ積極的に参加する意欲の向上を図る。 ・ 生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。 ・ 学校行事における自分の役割を生徒に自覚させ、一人ひとりが行事に対してやりがいを持てるよう配慮する。 ・ 多様な生徒のニーズに応じた図書を準備する。 ・ 図書委員によるイベントを企画するなど、来館者を増やすための取り組みを行う。 ・ 図書の展示方法を工夫し、読書への興味・関心を高める。 	

重点項目	その他：総合福祉科学習指導
重点課題	専門科目への意欲的な学習
現 状	「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。
達成目標	生徒の自己評価による介護技術の定着度・満足度 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ 生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確にする。・ 生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。・ 関連授業の連携により介護技術を繰り返し練習させる。・ 個別の配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。・ 授業のユニバーサルデザイン化を進める。